

## 平成 15 年度 ASEAN+3 エネルギー協力調査報告について<sup>1</sup>

総合エネルギー動向分析室 室長 小山 堅  
プロジェクト事業ユニット グループリーダー 小出高明

ASEAN 諸国および日本、中国、韓国(ASEAN+3)各国は、東アジアにおけるエネルギー・セキュリティ推進における具体的な協力のあり方を協議するため、エネルギー政策理事会ならびに石油市場をはじめとする個別分野について会合を平成 15 年 11 月から同 16 年 4 月の間に開催した。以下はその会合の概要ならびに全体の協議内容をまとめたものである。

### 1 - 1 経緯

2002 年 9 月に大阪で開催された第 8 回国際エネルギーフォーラム(産消対話会議)の際に、ASEAN 諸国および日本、中国、韓国(ASEAN+3)のエネルギー大臣レベルの会合が持たれ、アジアのエネルギー協力に関して、エネルギーセキュリティネットワーク、石油備蓄整備、石油市場(アジア・プレミアム問題)に関する研究、天然ガス利用促進、再生可能エネルギー、の 5 つが重点課題とされた。その後、ASEAN+3 においては、この 5 つの分野に関するフォーラムが形成され、各フォーラムにおいて有意義な議論が行われた。また、各フォーラムの進捗などを確認し今後の進め方を論じるため、エネルギー政策理事会(SOME+3 EPGG)が開催された。

### 1 - 2 各フォーラムならびに政策理事会総括

2003 年 11 月より、石油市場フォーラム(1 回)、石油備蓄フォーラム(2 回)、エネルギー・セキュリティフォーラム(1 回)、天然ガスフォーラム(1 回)、エネルギー政策理事会(2 回)を開催した。

#### (a) 石油市場フォーラム

石油市場フォーラムでは、主にアジアの石油市場に関する将来展望と問題点に関してプレゼンテーションならびに意見交換を行った。このフォーラムにおける最大の関心事はエネルギー価格における「アジア・プレミアム」であった。本件に関し集中的な議論を行い、このプレミアム問題がアジア共通の経済面の関心事項となること、1990 年代初めからこのプレミアムが続いてきたこと、欧米比 1 バレル 1 ドル程度のプレミアムをアジア諸

---

<sup>1</sup> 本報告は平成 15 年度に経済産業省から受託した事業で、その報告書のエグゼクティブサマリーである。経済産業省の許可を得て公表するものである。

国は支払ってきたこと、この価格差別はアジア向け供給源に多様性がなく中東依存が高い一方で中東からの石油供給に関しても柔軟性が乏しいため生じていること、の4点に関して見解の一致を見、アジア・プレミアムを含むアジアの石油市場の問題に関して ASEAN+3 諸国が共同で取り組むことの重要性について認識が一致した。さらに、中東以外の代替供給源(ロシアなど)の開発、石油市場機能強化、エネルギー源多様化の推進、石油備蓄の強化、ASEAN+3 諸国における探鉱・生産活動の強化、ASEAN+3 と中東産油国の対話といった次の段階、対応策を追求することに関しても同意した。

#### (b) 石油備蓄フォーラム

2 回にわたる石油備蓄フォーラムでは、石油備蓄に関する日本・韓国の取り組みならびに制度、ASEAN+3 にとっての石油備蓄、ASEAN+3 における石油備蓄制度整備に向けた協力の進め方などについてプレゼンテーションならびに意見交換が行われた。

その結果、ASEAN+3 全体としての今後の石油需要・輸入依存の増大に対応してエネルギー・セキュリティ強化が必要であり、そのため石油備蓄が重要な役割を果たすことに関して各国が認識を共有できたことは大きい。また、ASEAN+3 として、日本および韓国の経験を活かしつつ、石油備蓄整備に向けた可能性を追求することが重要であることについて認識が一致した。

また、石油備蓄の重要性に関する認識が共有されたことで、今後 ASEAN+3 として石油備蓄整備・強化に向けて地域協力を進めていく必要があること、そのための最適な方法を模索していくことが重要であることについても認識が一致し、今後の協力に向けた基礎固めができた点も評価できるものと思われる。

しかしながら、ASEAN+3 各国は石油資源賦存・需給状況や経済発展状況に大きな差があるため、石油備蓄の重要性そのものについては認識を共有しても、その認識には「温度差」がある。また、石油備蓄制度整備に関するコスト負担への経済的対応能力にも格差がある。その意味では、各国の状況・事情を考慮した柔軟な地域協力を進めていく必要があるものと思われる。また、日本・韓国を始めとして、その他の IEA 諸国等の経験を活用することも重要であると思われる。そのためにも、石油備蓄協力にあたっては国際協力・地域協力が重要な役割を果たすことが期待される。

#### (c) エネルギー・セキュリティフォーラム

エネルギー・セキュリティフォーラムでは、域内のエネルギー・セキュリティ確保のための方策、エネルギー・セキュリティ管理システムの開発についてプレゼンテーションならびに意見交換を行った。

セキュリティ確保のための6つの方策として、石油備蓄の推進、エネルギー貿易関連インフラの整備、石油データの整備、エネルギー供給者と良好な関係の維持、国境を越えたエネルギープロジェクトの推進(例えば、域内ガスパイプラインの建設)

市場の構造変化を促す(ガスヘシフト)、の提案があり、全体的に賛同が得られた。

エネルギー・セキュリティ管理システム開発(セキュリティの確保)のためには ASEAN + 3 間で情報の共有や意思疎通を図る場が不可欠との認識が示され、合意を得た。

参加各国はそれぞれ異なる国内事情を反映しエネルギー・セキュリティに対する考え方が相違しているため、一定の合意を得るまでにはさまざまな意見が見られた。しかしながら、中国の旺盛な石油需要を反映して、アジア地域の中東依存度の上昇によるセキュリティの脆弱性は明らかな事実であり、個別に対策を練るのではなく、ASEAN+3 が協調して取り組むことが必要であることは、参加者間で合意された。それを踏まえ、エネルギー・セキュリティ管理システムの構築に向けて第 1 歩を踏み出したことは大きな成果である。

#### (d) 天然ガスフォーラム

ASEAN+3 各国、ASCOPE、ASEAN Centre for Energy(ACE)、ASEAN 事務局よりそれぞれプレゼンテーションが行われた。主な項目としては、天然ガスの探鉱と開発、天然ガス開発の投資計画とその機会、天然ガスの消費・利用(電力用含む)、パイプラインによる天然ガスの輸送と LNG の輸送、である。これらに関し、ASEAN+3 域内での現状ならびにその課題につき活発な議論が交わされた。

その結果、天然ガスフォーラムでは今後 ASEAN+3 各国における天然ガスの利用・開発の促進、将来の資源開発の促進について、合理的で透明性のある投資環境という観点を含め、政府、業界を含めた対話を企画することで合意した。また、ASEAN+3 地域のエネルギー・セキュリティと天然ガス利用の拡大に関し、2 つの「I」ならびに二つの「T」について協力することでも合意した。それらは；

Infrastructure: LNG 及びパイプラインのインフラとその他関連する供給設備の整備

Investment: 天然ガス開発とその利用への投資促進

Trading: 国、地域、広範なマーケットの傾向と習性を考慮した柔軟な貿易協定の促進

Technology: 上流・中流・下流における技術開発

以上である。

#### (e) エネルギー政策理事会

エネルギー政策理事会では、個別分野のフォーラムにおける協議事項・合意事項を次のとおり再度確認し、ASEAN+3 全体としてのエネルギー協力の促進・深化の重要性を再認識した。また、今後の ASEAN+3 エネルギー協力を進める上での具体的な(フォーラム)活動等についても議論を行った。その結果、政策理事会として、今後の活動案について以下のとおり合意した。

- 第 1 回再生可能エネルギーフォーラム(2004 年 9 月、韓国)
- 第 2 回天然ガスフォーラム(2004 年 9 月、インドネシア)
- 第 2 回エネルギーセキュリティフォーラム+第 4 回 EPGG(2004 年 12 月 or 2005 年 1

月、場所未定)

- 第 2 回石油市場フォーラム+第 3 回石油備蓄フォーラム (2005 年第 1 四半期、場所未定)

### 1 - 3 まとめ

以上のフォーラム通じて、地域におけるエネルギー協力がアジアのエネルギー安全保障を強化するために重要な役割を担っていくということに関して、関係者間で認識が共有された点は重要である。しかし、その協力をさらに促進するにあたっては、ASEAN+3 各国が、経済、エネルギー需給面等において多様であること、利害が一致しない場合も多々あること等のため、多国間協力の推進にはさらなる努力が必要である。また、IEA、EU 等における多国間協力の先行事例から、教訓を学んでいくことも重要であると思われる。

なお、エネルギー協力に取り組む分野として、フォーラムを通じて確認した事項は次のとおりである。

- 石油市場：アジア・プレミアムはアジア消費国にとって共通課題と認識。共同での取り組みが重要。市場機能を強化し、アジア石油市場での公正な価格発信機能の強化と中東依存度の低減が重要。
- エネルギー・セキュリティー：タイムリーな情報シェアリングが重要。その確保のためのシステム構築に向けた検討のさらなる促進が必要。
- 石油備蓄：石油セキュリティー対策としての石油備蓄の重要性を再確認。中国の備蓄計画を歓迎。ASEAN 石油セキュリティー協定の改定に伴う緊急時対応能力強化の可能性を歓迎。日本・韓国による技術支援等の歓迎。
- 天然ガス：天然ガス開発・利用拡大の重要性を認識。そのため、投資、インフラ整備、天然ガス取引における柔軟性の拡大、等を重要課題と指摘。

以上である。

これらの ASEAN+3 域内のエネルギー協力において日本は大きな役割を果たしてきた。また、各国もそれを評価し、今後の日本の役割に期待を寄せている面があるものと思われる。今後も、エネルギー需要が増大するアジア、とりわけ ASEAN+3 を含む東アジアのエネルギー・セキュリティー実現にあたり、アジアのエネルギーパートナーシップを重視しつつ、わが国が重要な役割を果たしていくことが必要になっていくものと思われる。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp